

農業

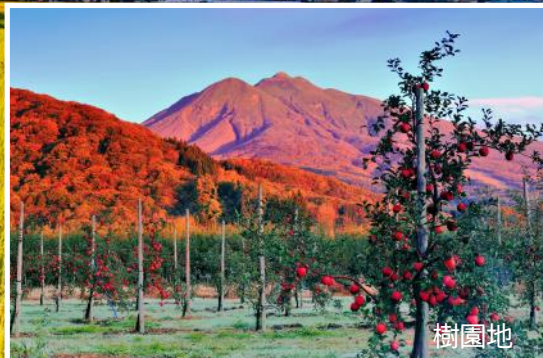
地域の特性を生かした農業が営まれています。

津軽地方では、米やりんご、県南地方では、野菜や畜産物が多く生産されています。

耕地面積は14万7,300haで、田が53%、普通畑が24%、樹園地が15%、牧草地が9%となっています。



田



樹園地

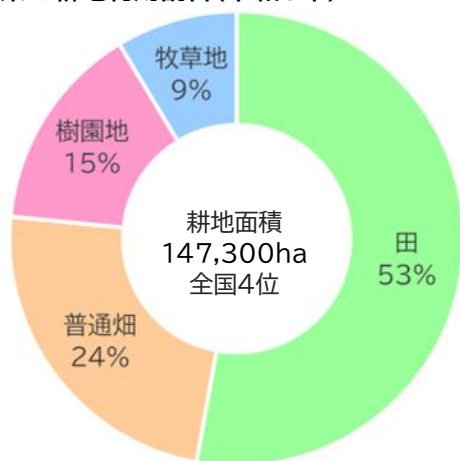


畑



ライムギと青刈りとうもろこしの二毛作(ライムギ)

青森県の耕地利用割合(令和6年)



出典: 耕地及び作付面積統計
※四捨五入のため、各要素の合計は100%とならない

耕地面積の大きい都道府県(令和6年)

順位	都道府県名	耕地面積(ha)
1	北海道	1,138,000
2	新潟	166,500
3	茨城	158,300
4	青森	147,300
5	岩手	146,000

出典: 耕地及び作付面積統計

農業の全国ランキング

1	りんごの生産量	第1位	令和5年
2	にんにくの生産量	第1位	令和5年
3	ごぼうの生産量	第1位	令和5年
4	採卵鶏の飼養羽数(1戸当たり)	第1位	令和6年
5	豚の飼養頭数(1戸当たり)	第2位	令和6年
6	ながいもの生産量	第2位	令和5年
7	だいこんの生産量	第3位	令和5年
8	かぶの生産量	第3位	令和5年
9	西洋なしの生産量	第3位	令和5年
10	食料自給率(生産額ベース)	第3位	令和4年
11	にんじんの生産量	第4位	令和5年
12	ブロイラーの飼養羽数(1戸当たり)	第4位	令和6年
13	耕地面積	第4位	令和6年
14	牧草の作付面積	第4位	令和6年
15	たばこ耕作面積	第5位	令和5年
16	食料自給率(カロリーベース)	第5位	令和4年
17	メロンの生産量	第7位	令和5年
18	ばれいしょの生産量	第8位	令和5年
19	ピーマンの生産量	第8位	令和5年

青森はおいしいお米の産地である

令和6年産の米の収穫量は全国11位(全国シェア3.4%)、10a当たり収量は全国1位(623kg)となっています。

「青天の霹靂」は平成27年のデビュー以来、全国各地で積極的なPR活動を展開してきたほか、8年連続で特A評価を取得したことなどにより、あおもり米全体の評価が高まっています。

令和5年産からは「はれわたり」が新たに加わり、「青天の霹靂」「まっしぐら」とともに、それぞれの特徴を生かした新たな需要獲得を目指しています。



適度な弾力があり粘り気が少なく、あっさりとした味わいが特徴で、県外を中心に多様な需要に応えることができるあおもり米の大黒柱です。



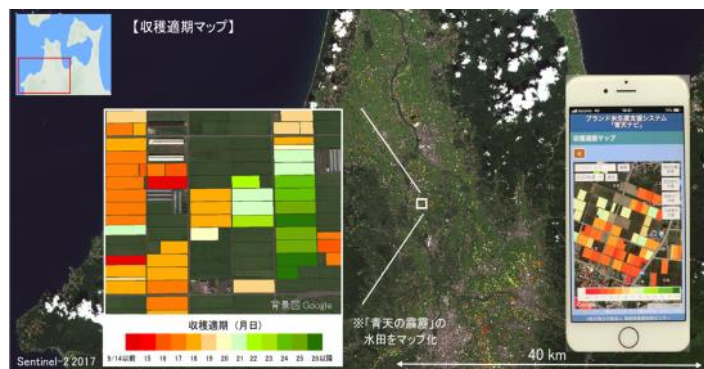
粘りとキレのバランスが良く、上品な甘みに残るさっぱりとした味わいが特徴です。おいしさを重視した作り方や出荷基準を設け、津軽地域の条件の良い地域で生産しています。



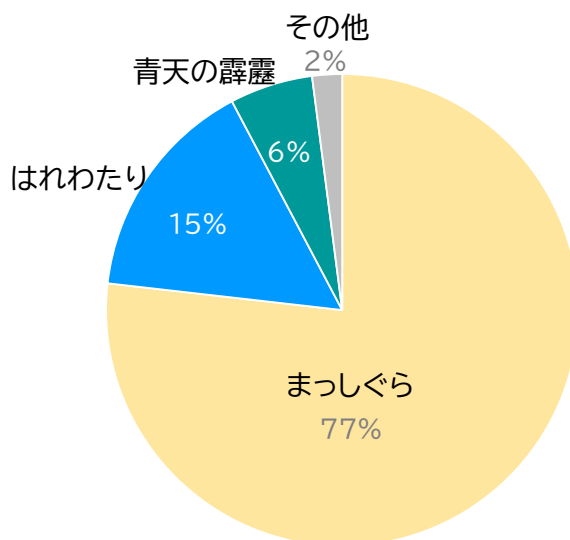
炊き上がりに白く光を放つ美しい外観と、しっかりとした粒立ちが特徴で、高温などが原因で米に割れが生じる胴割やいもち病に強い特性を持っています。

「青天の霹靂」の良食味・高品質生産のため、衛星画像からほ場ごとの水田の生育状況をデータ化するシステム「青天ナビ」を活用し、生産指導に活用しています。

令和6年度からは、このシステムを応用し、「まっしぐら」と「はれわたり」の収穫適期マップの試験運用を開始しました。



品種の作付面積割合(令和6年産)



出典:県農林水産部



「はれわたり」が3年連続特A評価を取得

一般的に1つのお米の品種を開発するまでには、最短でも10年の歳月を要するとされています。青森県の新品種「はれわたり」は、平成21年に育成をスタートし、13年の歳月をかけて県産業技術センターが開発しました。

令和5年11月3日に全国デビューし、量販店等での販売を開始したほか、令和4年産から3年連続で特A評価を取得し、**今後が期待されます。**

生産者のこだわりと豊かな自然が育んだ

自慢の野菜が勢ぞろい

青森県は、肥沃な土壌と夏季の涼しい気候を生かし、多くの野菜が生産されています。

野菜全体の産出額は東北1位で、出荷量全国ベスト10に9品目が入っています。

主力の「ながいも」「ごぼう」「にんにく」は貯蔵施設の活用等により、ほぼ周年で出荷されているほか、「トマト」「ミニトマト」は東京都中央卸売市場における8月入荷量でシェア3位となっています。

野菜の出荷量全国ランキング(令和5年)

品目	順位	全国シェア
1 にんにく	第1位	66%
2 ごぼう	第1位	44%
3 ながいも	第2位	35%
4 だいこん	第3位	10%
5 かぶ	第3位	6%
6 にんじん	第4位	6%
7 メロン	第7位	5%
8 ばれいしょ	第8位	0.5%
9 ピーマン	第8位	2%



にんにく

国内出荷量の約7割を占めています。青森県のにんにくは、大玉で一片が大きく、実が引き締まっていることが特徴です。品質の良いにんにくを通年で供給しています。



ごぼう

日本一の出荷量を誇り、国内出荷量の約4割を占めています。青森県のごぼうは、香りと風味がよく、シャキシャキとした食感が特徴です。



ながいも

国内出荷量の約4割を占めています。青森県のながいもは、色白で粘りが強く、柔らかい肉質とアクが少ないことが特徴です。

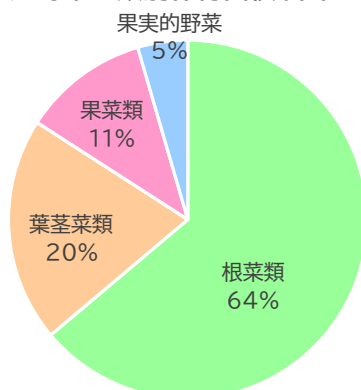
Topics

令和6年1月に「青森の黒にんにく」が地理的表示(GI)産品として登録されました。



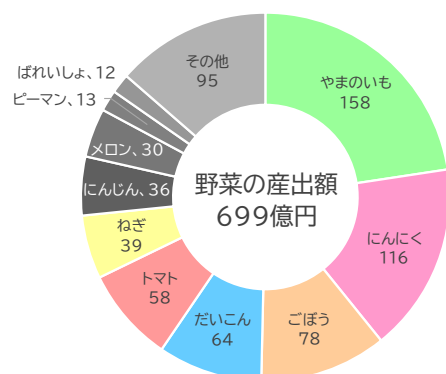
青森の黒にんにく

県産野菜の類別作付面積(令和5年)



出典:農林水産省統計

県産野菜の産出額内訳(令和5年)



出典:農林水産省統計

※産出額には「いも類」を含む。



だいこん

国内出荷量は全国第3位です。全国的には秋冬中心ですが、青森県では、冷涼な気候を利用して夏場から安定的に出荷しています。



こかぶ

国内出荷量は全国第3位です。青森県の主力はこかぶで、品質管理を徹底し、鮮度がよいと好評を得ています。

生で食べると、瑞々しさとほのかな甘みがあることが特徴です。



にんじん

国内出荷量は全国第4位です。青森県のにんじんは、夏から秋にかけての出荷が中心で柔らかくて甘味があることが特徴です。

主な野菜の旬カレンダー

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ながいも												
にんにく												
だいこん												
にんじん												
ごぼう												
こかぶ												
ばれいしょ												
ねぎ												
キャベツ												
メロン												
かぼちゃ												
トマト												

青森県オリジナル品種が続々登場



◇青森県にんにく新品種「青森福雪」

県産業技術センターが「福地ホワイト」から大玉で形状が良好なものを選抜し、青森県にんにく新品種として令和4年7月に品種登録を出願しました。



◇青森県ながいも新品種「夢雪」

県産業技術センターが「園試系6」を突然変異させた個体から選抜し、令和6年に品種登録を出願しました。いも長が「園試系6」よりも短いため、掘り取りしやすく、収穫作業時間の短縮や、軽労化、品質向上が期待できます。

世界に誇る青森りんご

青森りんごの生産量は約37万トンで、全国りんご生産量の約6割を占め、約26万トンが県外に出荷されています。

県内には、700棟を超える貯蔵施設が整備され、冷却貯蔵に加えて、酸素と炭酸ガス濃度を調整してりんごの呼吸を抑制する「CA貯蔵」により、ほぼ周年で出荷が可能となっています。



光センサー選果機によるりんごの選果



普通栽培



高密度栽培

通常のりんご樹よりもコンパクトな樹を密に植栽することで、少ない人手でりんご産地の維持・発展に取り組んでいます。

青森県オリジナル品種が続々登場



紅はつみ

県産業技術センターが開発し、平成30年に品種登録された県オリジナルの品種です。糖度は13～14%で、早生種の中では濃厚な味がします。

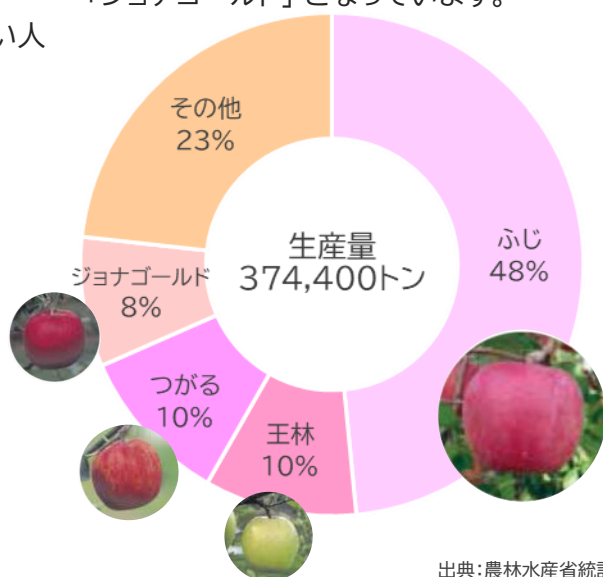
はつ恋ぐりん® (あおり24)

県産業技術センターが開発し、平成25年に品種登録された県オリジナルの品種です。糖度は13～15%程度、酸度は0.8%程度と、酸味はありますが、甘みも強く、酸っぱい果物を好む人に好評です。



品種構成の割合(令和5年)

青森りんごは全国生産量の6割を占めています。品種別生産割合では、「ふじ」が約5割を占め、次いで「王林」、「つがる」、「ジョナゴールド」となっています。



出典:農林水産省統計



青森県にりんごが植栽されてから、令和7年で150周年

青森りんごの歴史は1875年春に内務省勸業寮から青森県へ3本の苗木が配付され、県庁構内に植栽されたのが始まりです。

現在に至るまでには、未知の病気や害虫、台風などの自然災害、価格の暴落など多くの苦難がありましたが、先人たちが不屈の精神と努力で乗り越え、日本一の産地に発展しました。

地域で味わう季節の魅力、

青森フルーツ

青森県には、りんごの他にも全国第1位の収穫量を誇るカシスやあんず、生産量第3位の西洋なしなど、多様な特産果樹が生産されています。

特に食味が良く大玉なさくらんぼ「ジュノハート」、熟すと黄金色で独特な芳香を有する西洋なし「ゼネラル・レクラーク」、年明けまで販売可能なぶどう「スチューベン」は高い評価を得ています。



さくらんぼ(ジュノハート)

県産業技術センターが開発し、平成25年に品種登録された県オリジナル品種の「ジュノハート」は、500円玉より大きく国産では最大級の品種です。

糖度は約20度で、甘みが強く酸味が少ないことが特徴です。果肉がしっかりしていて適度な果汁があり、優れた食味と美しい外観から贈答品として最適なさくらんぼです。



西洋なし(ゼネラル・レクラーク)

青森県の南部町がいち早く産地化に取り組んだフランス原産の西洋なし「ゼネラル・レクラーク」は、独特な芳香を有し、ジュシーでなめらかな舌触りが特徴です。



ぶどう(スチューベン)

ぶどうは、特産果樹で最も栽培面積と生産量が多くなっています。

県産で最も生産量の多いスチューベンは、ニューヨーク生まれの品種で、鶴田町などで栽培されており、本県の栽培面積は全国の約7割を占めています。酸味が少なく濃厚な甘みの特徴です。

特産果樹の生産量全国ランキング

1	カシス	第1位	令和4年
2	あんず	第1位	令和4年
3	西洋なし	第3位	令和5年
4	さくらんぼ	第4位	令和2年
5	うめ	第6位	令和5年
6	もも	第7位	令和5年
7	ぶどう	第9位	令和5年

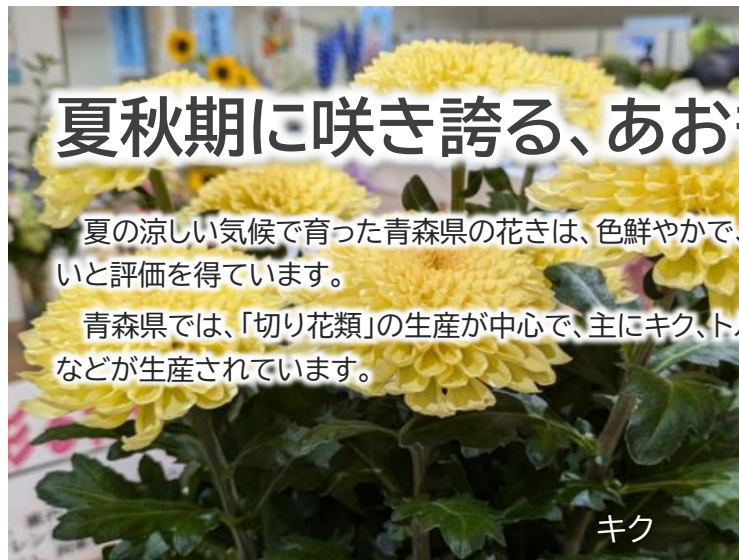
主な果樹の旬カレンダー

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
りんご(ふじ)												
りんご(王林)												
りんご(紅玉)												
なし(和)												
なし(洋)												
ぶどう(キャンベル)												
ぶどう(スチューベン)												
うめ・あんず												
さくらんぼ												
もも												
ブルーベリー												

夏秋期に咲き誇る、あおもりの花

夏の涼しい気候で育った青森県の花きは、色鮮やかで、日持ちが良いと評価を得ています。

青森県では、「切り花類」の生産が中心で、主にキク、トルコギキョウなどが生産されています。



キク



トルコギキョウ



アルストロメリア



ヒマワリ



デルフィニウム



ケイオウザクラ

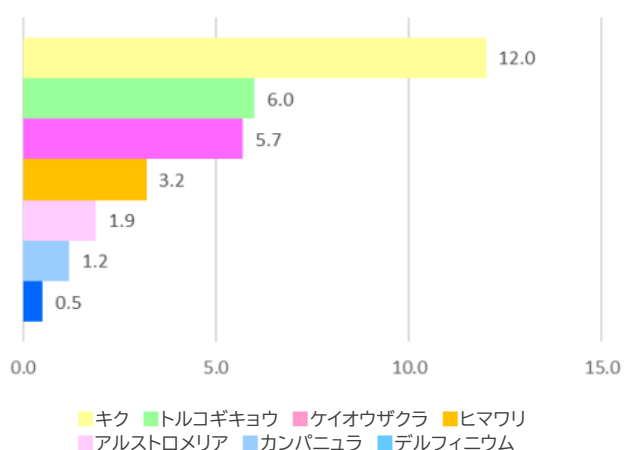
県産花きの魅力を広く紹介し、消費の拡大を図るため、あomorいフラワーフェスティバル(花の共進会)を開催しています。

フェスティバルでは、県産花きに親しんでもらえるよう、青森県花の共進会の出品物(100点以上)やフラワーアレンジメントの展示などを行っています。



フラワーアレンジメント教室

花きの県推進品目の作付面積(令和5年) (ha)



出典: 県農産園芸課

あomorいフラワーウィーク開催による県産花きのPR

青森県では、県内の花販売店と連携して、フラワーアレンジメントを販売する「あomorいフラワーウィーク」を開催しています。

令和6年は5回開催し、県産花きのPR活動と消費拡大の促進や、日常的に花に接する機会の増加を図りました。



「美味しい」が育む、「安全・安心」が養う、

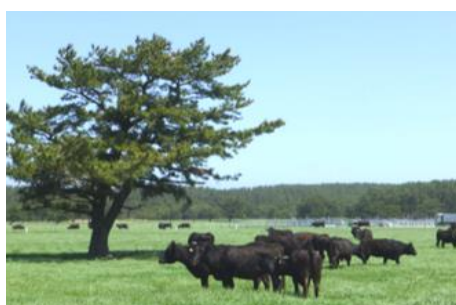
青森の畜産



夏季冷涼な気候と全国有数の飼料穀物コンビナートが立地している優位性を生かし、県内各地で畜産業が盛んです。

畜産の産出額は1,090億円で、本県農業産出額の上位10品目のうち、豚、鶏卵、ブロイラー、肉用牛及び生乳の5品目が占めています。

本県の畜産は、採卵鶏の1戸当たりの飼養羽数が全国第1位、豚の1戸当たりの飼養頭数が全国第2位となっているなど大規模化が進んでいます。



あおり和牛(黒毛和種)



あおり短角和牛(日本短角種)



青森シャモロック

あおり牛

県内で生産されている黒毛和種や日本短角種、乳用種及び交雑種などの牛の総称で、青森県の冷涼な気候と広大な自然環境のもと、公共牧場などの豊富な草資源を生かして育てられています。

あおり和牛



あおり牛のうち、黒毛和種を「あおり和牛」と称しています。

適度な甘みと口の中であまりける脂身の旨味が特徴です。

あおり短角和牛

あおり牛のうち、日本短角種を「あおり短角和牛」と称しています。

赤身の旨味成分が豊富なことが特徴です。



あおり和牛プレミアム

あおり和牛のうち肉質の等級4等以上



全国和牛能力共進会



特別賞の枝肉

唯一無二の美味しいお肉

“和牛のオリンピック”と称される「全国和牛能力共進会」が、5年に1度開催されています。令和4年度の肉牛の部において、県産牛が、特別賞(脂肪の質と形状賞)を獲得しました。

畜産産出額の内訳(令和5年)



出典:農林水産省統計



だい ひさざくら

「第1久桜」を県基幹種雄牛に指定

第1久桜は、現場後代検定において、BMSNo・上物率・5等級率が、青森県歴代1位を記録し、本県16番目の基幹種雄牛に指定されました。

全国的に希少な名牛「安福久」の後継牛であり、鳥取系や島根系等を父とする繁殖雌牛との交配により、肉質が向上することを期待されています。